

平成29年度 南丹市立美山小学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)

学校教育目標	学校の現状分析		学校経営方針(中期経営目標)	
<p>「ふるさとを愛し 夢や希望に向かって 自らを高める 美山っ子の育成」</p> <p>【めざす児童像】 み 自ら考え、豊かに表現する子 や やさしく、思いやりのある子 ま まっすぐ伸びるたくましい子</p> <p>* 児童が生き生きと活動し成長することを 保護者・地域・教職員が手を携えて取り組む学 校</p>	<p>再編後1年が経過し、通学方法や学級規模の 変化にも適応し、一定の落ち着きの中で学校生 活を送ることができている。人間関係の広がりも 見られ各授業や特別活動においても、多様性の ある意見や個性の中から集団解決していくこと で深い学びに繋がっている。個に視点を当てると、 発表の声小さかったり、消極的な姿勢が見ら たりする児童もあり、主体性を養い、主体的・対話 的で深い学びを進めること、家庭学習に繋がる学 習の展開により、自己学習力を培っていくことが 教員の課題である。</p> <p>また、今日の生活様式や遊びの変化により、身 体活動不足が日常化しており、体力の低下が懸 念されるため、諸活動を通じた運動量の確保と体 力向上を図る取組を進めていかなければなら ない。</p>		<p>○確かな学力・豊かな人間性・健やかな体を持つ児童の育成 ○地域と共にある学校として、地域と協働した取組による相互の活性化 (1)自ら学ぶ意欲を喚起し、基礎学力を定着させ、自らの考えを表現する 力を育成する。 (2)地域と共にある学校として、地域の教育資源の積極的活用と地域活 性化に向けた働きかけについて、全教職員で取り組む。 (3)人権尊重の精神が底流にある学校で、自分自身・仲間を大切にする 児童を育成する。 (4)多様な考えに触れることや意見の練りあい、多様な学習形態など、再 編によるメリットを感じることができる教育活動を展開する。 (5)人事評価や学校評価を活用し、教職員個々の能力伸長を通して、モ チベーションと経営への参画意識向上を図り、学校力を向上させる。</p>	
学校経営の重点(短期経営目標)	成果	評価	課題	改善策等
(1)自ら意欲をもって学び、仲間と共に学ぶ楽しさを実感する児童が80%を超えるようにする。	95%以上の児童が、学校は楽しく目標・目当てを持ってがんばっていると自覚している。	B	家庭学習時間や高学年の自主学習については、さらに高めることができる。	個に応じた課題の設定や励ましによって、児童が成就感を味わい自信が持てる指導を展開する。
(2)「美山学」を初めとする地域と連携した学習に教職員が積極的に参画し、その学習活動を通して、ふるさと美山を大切に思う児童が80%を超えるようにする。	「美山学」を中心に地域と連携した学習により、美山を誇りに思う児童が増加し、90%を超えるようになった。	B	保護者をはじめ、地域の方が学ばせたい内容を把握し、次年度の「美山学」につなげていく。	熟議での意見やアンケート等によって地域の方の願いを踏まえ教育課程を改善する。
(3)日常の活動や人権学習を通して児童の人権意識を高め、いじめは絶対に許さないと考える児童が90%を超えるようにする。	いじめを許さず、困った友達に手をさしのべるという児童が、95%を超えている。	B	自分の良さに気づけない児童が20%程度いることから、友達の良さを認め大切にすることをさらに高める。	一人一人がかげがえのない大切な存在であるということを次年度も伝え続ける。
(4)体育・スポーツが好きで、自らをさらに高めたいと思う児童が80%を超えるようにする。	意欲の高い児童が陸上大会や駅伝で成果をあげ、全校児童の自尊感情を高めることにつながった。	C	運動好きの児童とそうでない児童の二極化が見られ、全児童の運動機会の拡充を図る。	朝や休み時間の外遊び・運動の推奨と、体育の授業や体育的行事を通じて運動量を確保していく。
(5)人事評価の自己目標達成に向けた取組や校内研修により、教職員が自身の成長を実感するようにする。	全教職員で取組を進めた「美山学」の研究に対し、京都丹波の教育推進表彰チーム賞を授与された。	B	各教員の自己目標と学校自己評価目標の相関関係をさらに意識する。	各教員が自己目標の達成を通じて、学校自己評価目標達成に寄与することを当初から意識する。